

妊娠中のレントゲンは大丈夫？

妊婦さんのお悩みシリーズ[2]

「歯の健康教室」は、スマートフォンでもご覧いただけます。



歯科医院で使用するレントゲン撮影機器には、

- 2～3 歯の範囲を部分的に撮影する「デンタルレントゲン写真」
 - 顎（あご）の全体を撮影する「パノラマレントゲン写真」
- の2種類があります。

どちらも直接お腹にレントゲンが照射されることはありません。撮影部位がお腹から離れいまずし、防護エプロンを着用してお腹周りを保護すれば、赤ちゃんへの影響はないとされています。

また、当院に設置されているデジタルレントゲン装置は、従来のレントゲン撮影に比べて防護エプロンを使用すると、レントゲン量は 1/100 程度に減弱され、限りなくゼロに近くすることが可能です。

診断や治療に必要な場合はレントゲン撮影を行いますが、心配な方は遠慮なく撮影を断っていただいても構いません。

人が地球上で 1 年間に浴びる自然放射線量（レントゲン写真は放射線で撮影します）は、日本で約 2.3mSV（ミリシーベルト）です。デンタルレントゲンでは 150 枚以上、パノラマレントゲンでは 100 枚撮影できる計算になります。

